

# 琉球大学学術リポジトリ

## 居間（洋式）の家具の配置について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 比嘉, 美佐子, Higa, Misako メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20870">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20870</a>

# 居間（洋式）の家具の配置について

この頃の住宅には、大分洋式がとり入れられるようになりました。なかでもリビング・ルームの名で親しまれている家族団楽の場と客の接待を兼ねた洋風の居間もその一つではないでしょうか。テレビを見たり、レコード・ラヂオを聞く、ゲーム遊び、時には読書等と各家庭によって多様に使われる部屋です。それでは諸々の活動が便利に楽しくできる居間にするにはどのような工夫があるでしょう。

## I つりあいのとれた家具・装飾品の選択

洋間が充分に広く、予算に制限がない場合は、ソファ一、肘掛椅子、椅子、テーブル、脇テーブル等と夫々好みの大きさと数を揃えることができます。しかしながら殆どの住宅は多少の制限された範囲内で工夫をしなければならないのが普通です。その場合、部屋の大きさに応じたサイズの家具を選ぶことから始めましょう。とかく洋間という伝統的な威厳のある大きな重い家具を考えがちです。併しながら最近では小サイズで軽くて持ち運びも便利で、坐り心地のよい製品も市販されています。複雑すぎないで掃除に手間のかからない、すっきりしたデザインの家具を選びましょう。又狭い部屋には低めの家具の方が部屋を広くみせることがよくあります。絵や装飾品の大きさも部屋や家具、配置される場所とのつりあいを考慮に入れて選びましょう。一般に絵の位置は直立の姿勢で目の高さより絵の主体が上方にいかない程度がみやすい位置だとされています。絵の吊り紐や線が目ざわりにならない工夫をしましょう。

## II 機能的な家具の配置

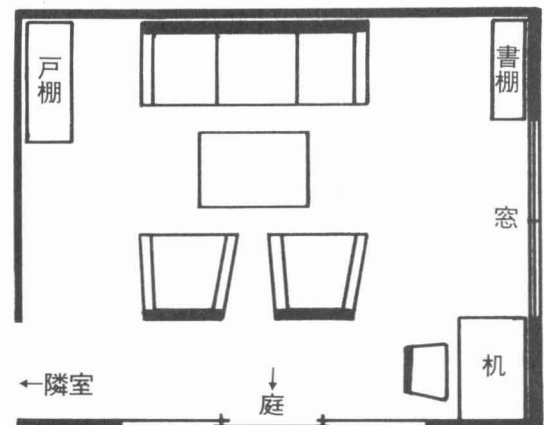
洋間の装飾は先づ家具の選択と配置からとよく云われます。それぞれの家具が使いやすくその部屋で最も

適当な位置を決めましょう。なんといっても頻繁に使用する大きな重い家具の配置から考えましょう。例えば、出入口や通路に邪魔になる配置はなんとなく気楽さと落ち着きに欠けることがあります。又窓ぎわの高めの書棚は部屋を暗くし通風の妨げになることがあります。家具の位置や向きを少し変へただけで使いやすく部屋が広くみえることがあるものです。

## III 調和のとれた配置

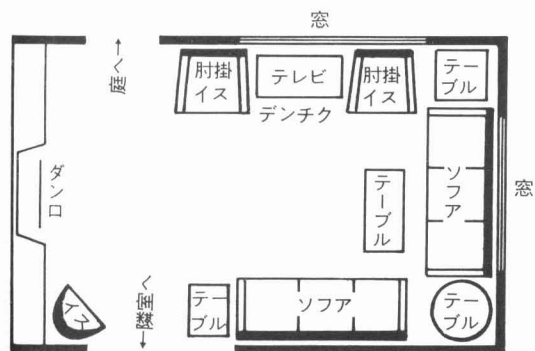
住宅や家具の殆んどは直線で構成されています。調和のとれた配置をするには背景になる室内の構造に準じて家具を配置することです。特に主要な面積を占める敷物・長椅子・テーブルは壁の線に平行に配列した方が一致した効果、即ち室内に調和がみられましょう。小サイズで、しばしば動かす椅子の1・2脚は斜めにしても室内に或程度の変化を与えますが大きな家具を夫々方向を違えて斜めにとすると部屋全体に統一感がなくなります。更に部屋が狭くなり有効に面積が使えなくなります。配置の3タイプを述べますと

A) コーアー・アレンジメント テーブルを部屋の中央におきそれを長椅子や椅子で囲む配置です。日本間のテーブルと坐ぶとん、会議室のテーブルと椅



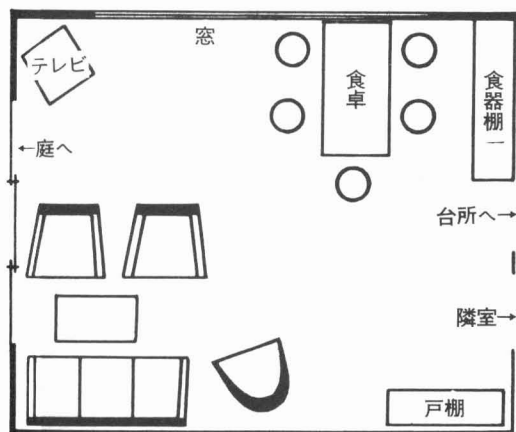
子等の配置と同じあり方です。脇をつき合せて話し合いができ、又和風に茶菓子を楽しむに適當なのではないでしょうか。但しテーブルや椅子の殆んどが部屋の中央にあるため、四方の壁・窓ぎわに通路として空間が区分され、部屋全体がつまった感じになる場合が多いようです。

#### B) オープン・コアー・アレンジメント 部



屋の壁・窓際に沿って家具を配置するタイプです。部屋の中央が空いているので一般に部屋が広く見えます。戸外への出入口の開口が大きい部屋や壁面の少ない部屋ではそのようなアレンジメントは無理の場合が多いでしょう。

#### C) コーナー・アレンジメント 居間の一角に



主要な家具を纏めるあり方です。部屋の広さ・家具の数によって、二列型・L型・コの字型に配置できまし

よう。このような配置は食事や書斎等と併用した部屋に多くみられます。

上記の3タイプのアレンジメントはその室内によってファイヤープレース (暖炉) や飾り棚が中心になるときと、眺めのよい戸外や庭園を楽しむに適當な配置もありましょう。又主な家具のグループ自体が中心になることもあります。

## IV 強調点のある装飾

床の間が装飾の主体で、その他は控え目である日本間の装飾のあり方、即ち伝統的な簡素の美を矢張り洋間にも生かしたいものだと思います。所有の装飾品を全て部屋一杯に陳列する店舗式の装飾は、やゝもすると雑然とした感じになりがちです。装飾品が多すぎると各々の良さを認めることができず、見あきってしまいます。一カ所に、二・三の飾り物を置く場合も主・従の組合せを考えて配置しましょう。室内の装飾は、絵や置物だけでなく、カーテン・敷物・照明器具等の形や色あい・材質・柄等が装飾の役目を果たすことも忘れてはなりません。

結局、リビング・ルームは限られた広さの部屋に、つりあいのとれた家具を機能的に配置し調和のある雰囲気をつくるように工夫したいものです。即ち「機能と美」が一体になることです。(ひがみさこ)

### 現代の装飾のあり方

